

第6学年2組 体育科学習指導案

1 単元名 ゴールボール

2 運動の特性

ゲームの「プレイヤー」全員が目隠しをして、相手側にあるゴールにボールを転がす攻防を行い、どちらが多く得点できるかを競い合うことが楽しい運動である。

3 児童の実態

(1) 知識・技能の状況について

本学級の児童は、ゴールボールについて知っていると感じた児童が6人のみで、これまでにゴールボールを実際に見たことも取り組んだこともない児童が多いことがわかった。「ゴールボールを上手に行うために気を付けることは何か」という問いに対しては、「鈴の音をよく聞く」「上手に倒れて、ボールを止める」「仲間に声をかける」といった運動の特性に触れた意見が見られたものの、ほとんどの児童が「やったことがないからわからない」と答えた。技能調査では、ボールを投げる時には、コートの外へ投げてしまったり、力強く投げられなかったりする児童の姿が見られた。ボールを止める時には、鈴の音が聞こえていても目隠しをしている不安から体を倒すことができない児童もいた。体を倒してボールを止めようとしている児童の中には、バンザイのように腕を上げてしまい、顔に当たりそうになる場面も見られた。ゴールボールの経験がないことから、ゴールボールの行い方やボールの投げ方、止め方などがよくわかっていない様子であった。

(2) 思考・判断・表現の状況について

自分に合った具体的なめあてをもつことができるかについては、「もてる(17人)」「もてない(11人)」と答え、二極化していることがわかった。「めあてを意識した活動ができるか」という問いに関しても同様に答えており、半数の児童は自分のめあてをもって活動をすることができていないことがわかった。「友達の動きを見て、よいところを伝えることができるか」「アドバイスや教え合いができるか」といった問いに対しては、「できない(14人)」とクラスの半数の児童が答えており、友達のどこを見て、何を伝えればよいのかわからず、よいところを見つけられていない児童が多くいることがわかった。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の状況について

本学級の児童は、体を動かすことに楽しさを感じる児童が多く、26人が体育の学習を好きと答えている。今年度取り組んだ「短距離走・リレー」「ハードル走」「体の動きを高める運動」の学習では、それぞれの学習の行い方を学び、チーム対抗のリレーで競走したり、自分の記録に挑戦したり、友達とペアを組んで様々な動きに取り組んだりして、意欲的に活動することができている。ゴールボールの意識調査では、「嫌い(16人)」「わからない(5人)」と回答する児童が多かった。「やったことがないから」という意見がほとんどだが、記述の中には、「目隠しした状態だと友達とぶつかってしまうかもしれない」、「鈴の音を聞き取れないかもしれない」といった安全面や運動の行い方に関することへの不安が感じられた。

4 研究の視点と学習の手立て

(1) 市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点と手立て

視点1 課題を見付け解決できる学習過程の工夫と指導内容の明確化

<手立て>

○「する」「支える」に重点を置いた学習活動

「ゴールボールのことを知っていますか」という質問に対し、あまり知らない（7名）、知らない（15名）という回答や、「アドバイスや教え合いができますか」という質問に対して、あまりできない（13名）、できない（1名）という回答があった。パラスポーツであるゴールボールにおいて「する・みる・支える・知る」の4つの見方・考え方は重要であるが、ゴールボールの経験がない児童の実態から、限られた時間で4つの見方・考え方を網羅することは難しいと考える。そこで、「する・支える」の2つの見方・考え方に活動の重点を絞ることにした。そうすることで、指導内容が明確になり、本学級の児童にゴールボールの運動のもつ楽しさや喜びを味わわせることができるのではないかと考えた。

<本単元で行う活動> ※太枠が重点活動

す る	み る	支える	知 る
《守り方》 ○転がってくるボールの鈴の音を聞き、その方向に体を倒してボールを止める。 ○顔に当たらないように顔の前に片腕を構え、安全に気を付けながらボールを止める。 《投げ方》 ○目隠しした状態でも、ねらった方向（ゴール）に向かってボールを投げる。	《ゴールボールの動画を見て》 ○ゴールボールの特性や試合の様子、ルールを確認する。 ○プレイヤー以外にも審判や応援している人等のゲームを支えている人を見る。 《パラアスリートを見て》 ○怖がらずに思い切ってプレーしている様子を見る。 ○ゴールボールの守り方や投げ方を見る。 《友達を見て》 ○友達のよい動きを見る。 ○目隠しした状態の友達がプレーしている時に困っていることを見つける。	《サポート係として》 ○プレイヤーに必要な情報を伝える。 →試合の状況 →ボールの場所 →プレイヤーの向き ○プレイヤーの守り方や投げ方について称賛したり、アドバイスしたりする。	知 る
			《ゴールボールについて》 ○目隠しした状態で、全身でボールの行方を感じて動く面白さに気付く。 ○技能のポイントを知る。 ○ゴールボールの行い方を知る。
			知 る （総合・道徳・学活等） 《パラスポーツについて》 ○障害の有無に関わらず、誰にでも楽しめるスポーツであることを知る。 ○自分とパラアスリートを比べ、パラアスリートの凄さや努力に気付く。 ↓ ○パリオリパラを見たい。 ○他のパラスポーツにも挑戦してみたい。 ※オリパラ教育として教科横断的な視点で各教科にて今後指導していくこととする。

視点2 運動の楽しさや喜びを膨らませる関わり合いの工夫

<手立て>

○互いに気付いたことや感じたことを伝え合う「支えタイム」の設定

意識調査から本学級の児童は、「友達の動きを見て、よいところを伝えることができますか」や「アドバイスや教え合いができますか」の問いに対して、半数の児童が「できない」と答えていた。これまでの体育の学習や他教科の学習でも、伝え合う機会が少なく、関わり合って学習するよさを十分に味わっていない様子が見られた。このような実態から、ゲームの間や振り返りの時間の中に「支えタイム」を設け、友達と関わり合って学習するきっかけにしていきたいと考えた。

支えタイムでは、サポーターとプレイヤーでペアを作り、1対1で声かけを行えるようにする。ゲームの間では、前半と後半が終わった後それぞれに2分間の支えタイムを設定し、サポーターとして見ていて気付いたことをプレイヤーに伝えたり、逆にプレイヤーから感じたことをサポーターに話したりしていく時間とする（支えタイム①）。単元を通して、このペアを固定することで安心して学習したり、お互いの成長を見取り励まし合ったりすることができるようにしたいと考えた。

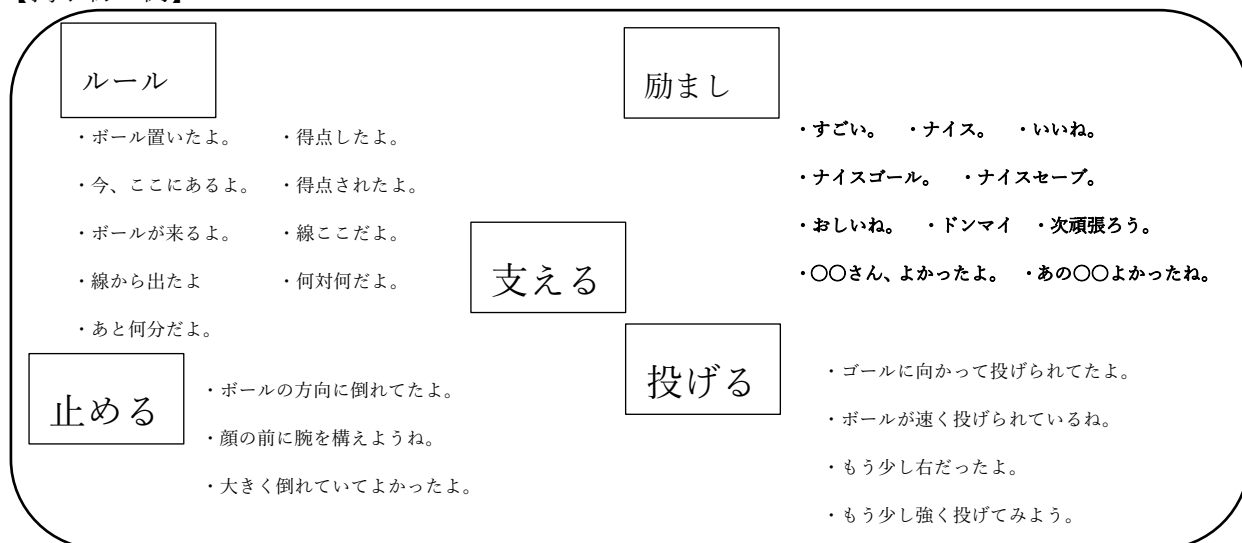
また、振り返りの場面では、特にプレイヤーがサポーターに言われてよかったところについて掲示物（みらいSEEDS）を活用して全体で共有する（支えタイム②）。そうすることで、何を伝えたらよいかかわからない児童も自信をもって友達に声をかけることができると考えた。

2つの支えタイムを設けることで伝え合う機会が生まれ、仲間と関わり合いながら運動することの楽しさや喜びを感じられるような学習にしたい。

【支えタイム】

支えタイム①	ゲーム前半4分	支えタイム（2分）
	ゲーム後半4分	支えタイム（2分）
支えタイム②	学習の振り返り	支えタイム

【掲示物の例】



5 単元目標

- (1) ゴールボールの行い方を知るとともに、目隠しをした状態でボールを転がしたり、ボールを止めたりすることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) ボールを転がしたり、止めたりするときに行った工夫を、動作や言葉で友達に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

6 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ゴールボールの行い方について理解することができる。 ②転がってくるボールの鈴の音を聞き、その方向に体を倒すことができる。 ③ゴールに向かってボールを投げることができる。	①ボールを転がしたり、止めたりするときに行った工夫を、動作や言葉で友達に伝えている。	①ゴールボールに積極的に取り組もうとしたり、約束を守って仲間と助け合おうとしたりしている。 ②準備や片付けを行い、場の安全を確かめながら活動している。 ③友達の考えや取組を認めようとしている。

7 指導と評価の計画

	1	2	3 (本時)
学習のねらい	ゴールボールの行い方を知り、学習過程への見通しをもつ。	プレイヤーとしてゲームに取り組んだり、サポート係として友達を支えたりしながらゴールボールを楽しむ。	
0 ↓ 45	オリエンテーション ・ゴールボールの動画を見る ・競技の特性、ルールを学ぶ ・学習過程や約束の確認 ・準備や片付けの仕方 ・安全面についての確認 ・準備運動 ・つながる運動 (ボール慣れ) ・ためしのゲーム ・振り返り	ゴールボールを楽しもう ・場の準備、準備運動 ・つながる運動 (ボール慣れ) ・ゲーム (前半4分 支えタイム2分 後半4分 支えタイム2分) ・振り返り	
			まとめの時間
知・技	① (観察・カード)	② (観察)	③ (観察)
思・判・表			① (観察・カード)
態度	② (観察)	① (観察)	③ (観察・カード)

8 指導計画

	学習内容と活動	教師の指導・支援○ 評価◇
はじめ	【オリエンテーション】 1 ゴールボールの映像を見て、競技の特性やルール等を学ぶ。 2 学習のねらいや運動の行い方を知り、今後の学習の見通しをもつ。 1) 学習のねらい 2) 学習の約束 3) 安全面についての確認 4) 場の準備・片付けの仕方 3 準備運動を行う。 4 つながる運動を行う。 ・2人組で「目を開けた」状態で転がしたり止めたりする。 ・2人組で「目を隠した」状態で転がしたり止めたりする。 5 ためしのゲームを行う。 ・ゲームを通して、ルールや流れ、役割の確認をする。 (前半4分-支えタイム2分-後半4分-支えタイム2分) 6 学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 ・学習カードの振り返りを書く。 ・学級全体で話し合う。 ・「支えタイム」の中で互いのよかったところやアドバイス等を伝え合ったり、相手の学習カードに記入したりする。 7 協力して場や用具の後片付けを行う。	○映像資料を見ながら、ゴールボールの行い方を確認する。 ○学習の見通しをもつことができるように、オリエンテーションカードなどの資料を見せながら説明する。 ○目隠しをした運動する場面が多いので、場の安全には常に配慮するよう促す。 ○単元を通して安全に活動するために、間隔を十分にとることや場の安全に気を付けることを指導する。 ◇ゴールボールの行い方について理解することができる。 【知・技①】 ○怪我をしないように、安全に気を付けてボールを止めることを指導する。 →顔にボールが当たらないように顔の前に片腕を構える。 ○最初は2人組どちらも目を開けた状態でボール慣れを行い、慣れてきたらボールを転がすスピードを速くしたり、転がすコースを少し横にずらしたりするように声をかける。 ◇準備や片付けを行い、場の安全を確かめながら活動している。 【態度②】 ○ゲームがスムーズに進行できるように、ゲームの行い方を指導する。 ○声かけの仕方やルール上のサポート等、サポート系の役割ができるように、助言する。 ○鈴の音が聞こえるように学級全体へ指導する。 ○学習の進め方やゴールボールの行い方、ルール等を再度学級全体で確認する。 ○プレイヤーがサポーターに言われてよかったところについて掲示物を活用して全体で共有する。児童に「支える」という見方・考え方に目を向けさせ、「支えタイム」の時間を友達と関わり合うきっかけにしていく。

	- 協力して場や用具の準備を行う。 - 全体で準備運動を行う。 - つながる運動を行う。 2人組で「目を開けた」状態で転がしたり止めたりする。 2人組で「目を隠した」状態で転がしたり止めたりする。 - 本時のめあてやねらいを確認する。	○場や用具、人との間隔等に気を配り、十分に安全を確認する。 ○ゴールボールの守り方や投げ方ができるように、準備運動の中にその動きを取り入れる。 ○最初は2人組どちらも目を開けた状態でボール慣れを行い、慣れてきたらボールを転がすスピードを速くしたり、転がすコースを少し横にずらしたりするように声をかける。 ○今までの学習を生かしたつながる運動となるように、チームでのボール慣れや練習の時間となるように助言する。
な か	ゴールボールを楽しもう 【めあての例】 - 鈴の音をよく聞いてボールを止める。 - 怖がらずに体全体でボールを止める。 - ねらったところに投げてゴールを決める。 - 体全体でボールをしっかりと投げる。 - チームみんなで勝つために、サポーターとして友達に情報を伝える。 - 安全に気を付けてゴールボールを楽しむ 5 ゲームを行う。 【はじめのルール】 1チーム6人（7人）とする。（全4チーム） 3人がプレイヤー、3人がサポート係とする。 - サポート係は得点や審判の役割も行う。 - ゲーム時間 前半4分-支えタイム2分-後半4分-支えタイム2分 10秒以内に相手コートへ転がす。 【オリエンテーション】 ためしのゲーム - 青 対 赤 緑 対 黄 【2時間目】 第1試合 - 青 対 緑 赤 対 黄 【2時間目】 第2試合 - 青 対 黄 赤 対 緑 【3時間目】 第1試合 - 青 対 赤 緑 対 黄 【3時間目】 第2試合 - 青 対 緑 赤 対 黄	
		○自分のめあてを再確認する機会を設け、学習中にめあてを意識しながらプレーできるようにする。 ○体全体でボールを止めていたり、ねらった方向にボールを投げていたりする児童を称賛し、よい動きとして広めていく。 ○サポート係として、迅速かつ丁寧に必要な情報を伝えている児童を称賛し、全体に広める。 ◇転がってくるボールの鈴の音を聞き、その方向に体を倒すことができる。 【知・技②】 ◇ゴールに向かってボールを投げることができる。 【知・技③】 ◇ボールを転がしたり、止めたりするときに行った工夫を、動作や言葉で友達に伝えている。 【思・判・表①】 ◇ゴールボールに積極的に取り組もうとしたり、約束を守って仲間と助け合おうとしたりしている。 【態度①】

	6 学習を振り返る。 ・学習カードの振り返りを書く。 ・学級全体で話し合う。 ・「支えタイム」の中で互いのよかったところやアドバイス等を伝え合ったり、相手の学習カードに記入したりする。 7 協力して場や用具の後片付けを行う。	○「する」「支える」の見方・考え方を中心とした振り返りをさせ、ボールの投げ方や守り方のこつ、サポーターとしての声かけの仕方について掲示物にまとめる。 ○掲示物を活用し、サポーターとして見ていて気付いたことやプレイヤーとして感じたことを互いに伝え合うように助言する。 ◇友達の考えや取組を認めようとしている。 【態度③】 ○場や用具、人との間隔等に気を配り、十分に安全を確認する。
まとめ	【学習のまとめ】 ○ゴールボールの行い方を知るとともに、目隠しをした状態でボールを転がしたり、ボールを止めたりすることができたか。 (知識及び技能) ○ボールを転がしたり、止めたりするときに行った工夫を、動作や言葉で友達に伝えることができたか。 (思考力、判断力、表現力等) ○運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができたか。 (学びに向かう力、人間性等)	